

運動指導者は「見立てのズレ」をどのように指導に役立てるのか  
—メディカルフィットネスクラブへのフィールドワークを通じて—  
古田 翔一（スポーツ学研究科 競技スポーツ系 スポーツ情報戦略分野）

主査 豊田則成(指導教員) 副査 林綾子, 高橋佳三

How do exercise leaders use ' difference of view ' for guidance

- Through field work to the medical fitness club -

Shoichi Furuta

キーワード：健康運動指導者，メディカルフィットネスクラブ，見立てのズレ，質的研究

Keyword : Health exercise leader, Medical fitness club, Difference of view, Qualitative Research

### 【緒言】

本研究の関心事は，メディカルフィットネスクラブ (Medical Fitness Club : 以下MFC) における健康運動指導者が指導を行う際に直面する「見立てのズレ」をどのように指導に役立てるのか質的に検討することにある。

したがって，本研究は「**健康運動指導者が直面する見立てのズレをどのように指導に役立てるのか**」というリサーチクエスチョン (Research Question:以下 RQ) を設定し，質的にアプローチし，発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とする。

### 【方法】

- 1) 調査対象:ある MFC に従事している健康運動指導者 4 名.
- 2) 調査期間 : 2015 年 6 月～2016 年 8 月.
- 3) データ収集方法 : MFC へフィールドワークを行い,そこでの日々の出来事をフィールドノートに記録した. その記録から MFC の健康運動指導者は運動実施者へ行う「見立て」に「ズレ」が生じ,悩みながら指導を行うことが読み取ることが出来た. そこで上記の RQ を設定し,健康運動指導者へインタビュー調査を行い,そこでの会話内容を分析データとした.
- 4) 分析方法: 質的研究法の代表的手法の一つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Modified Grounded Theory Approach:以下, M-GTA と称す) を参考に分析した.

### 【結果と考察】

分析の結果,左記の RQ に対し,健康運動指導者は,「運動実施者との関わりで,①限られた力に関わろうとすることと,②取り組みと成果にギャップを感じことを繰り返すことで,③自分を見失い,それでも④うまく関われる妥協点を探すが,⑤指導の難しさを感じてしまう.しかし,徐々に運動実施者目線を獲得し,関わりに手応えを感じていくことで,⑥等身大の取り組みができるようになり,⑦どのように関わればよいか理解が深まっていく」というプロセスで見立てのズレを指導に役立てるといふ仮説的知見を導き出した.

### 【総括】

上記の考察から,見立てのズレを抱えながらも指導を行う健康運動指導者は,「見立てのズレを行きつ戻りつしながら指導に役立てていく」ことを導き出した.

以下の 5 点を現場への提言とする.

- 1) 健康運動指導者は「見立てのズレ」があるからこそ運動実施者の理解が深められる.
- 2) 健康運動指導者は運動実施者とコミュニケーションを深め心理的距離を縮めることが重要である
- 3) うまく関わるできない段階にも意味があることを理解することが必要である
- 4) 運動実施者との関わりにおいて「見立てのズレ」を認識することが大切である
- 5) 運動実施者との関わりを行きつ戻りつ深めていくことを理解する必要がある.

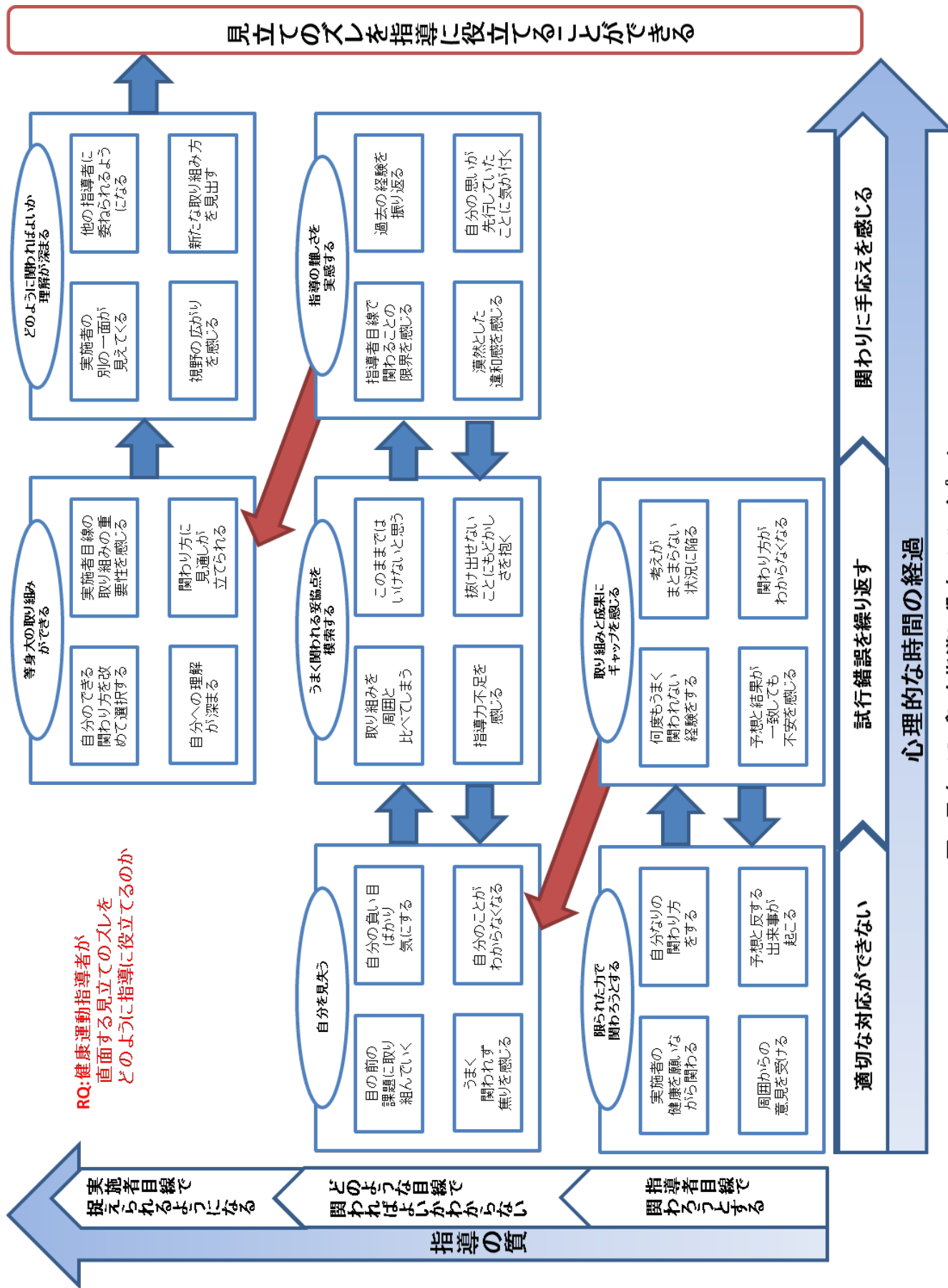


図1.見立てのズレを指導に役立てていくプロセス